

## 山東省農村事情

2011.3.31

香港 花木

今回、2度にわたり山東省農村部に足を運んだのでメモをお送りする。

### (1) 水不足問題

中国では、急速な経済成長と人口の増加を背景に、水不足が深刻化しているとされる。更に大都市周辺では大規模な工業団地の造成による工業用水需要の急増と、人口増加や緑化に伴う都市部の水需要の増大が農村部の水不足に拍車をかけているという。

中国政府水利部は既に2005年6月、全都市の約80%が水不足であり、また、都市部の河川や湖沼の90%以上が汚染されているため、「人口のピークを迎える2030年には深刻な水不足が発生する」と警告した。もともと、中国の水資源量（淡水）は約2兆8,000億 $m^3$ で、一人当たり直すと約2,200 $m^3$ と世界平均の3分の1にすぎない。特に降水量の少ない北方地域だけを見るとこの数字は約900 $m^3$ でしかなく、恒常的な水不足状態にある。

こうした中で、今年に入って筆者が訪問した内陸部重慶市の水利問題専門家は、重慶においても既に農業用水の不足が深刻化しており、今や農業用水どころか農民の飲み水にすら事欠く状態になりつつあると語った。また、春節頃の「週末南方」紙によれば、本年は河北地域、特に山東省で降水量が極めて少なくなっており、深刻な干ばつが懸念され、そうした危機感が今年の中央一号文件（中国共産党が毎年発出する文書のうち文書番号第一番のもの）で水利問題が取り上げられた背景にある旨報じていた。山東省は農業大省であり、実際にこの地域で深刻な干ばつが発生するようであれば、6月頃の冬小麦の収穫にも大きな影響が出る可能性すらある。そこで今回は青島農業大学の隋姝妍教授に同行して青島周辺の農村を訪問し実情の調査を行った。

#### 《中央一号文件》

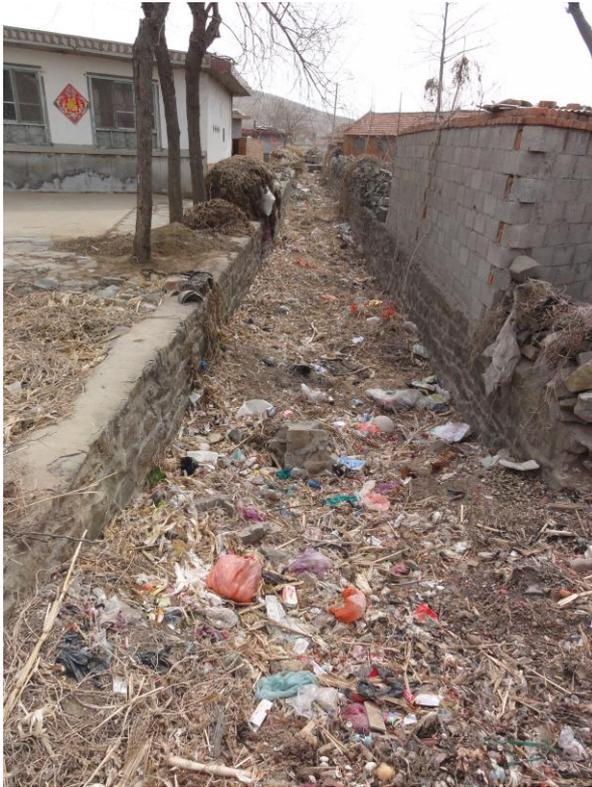
2011年の中央一号文件は「水利改革の発展を加速することに関する決定」であり、具体的には政府が土地売却収入で得た金額の1割を農業水利事業に回すことを求めている。具体的な投資規模については今後10年間で総額4兆元を投入するとの発言もあり、大きな注目を集めている。

さて、今回訪問したのは青島の北約200kmにある農村部で、行政区としては煙台市に所属する一帯である。この地域は都市に比較的近いという地の利を生かして早くからリンゴやイチゴ等の商品作物の生産に取り組み、また、農地の集約にも積極的に取り組んできた地域である。しかし、全ての農家がこうした取り組みをしているわけではなく、どの農家も若者世代は町に出てしまい、残された高齢者だけで比較的手間をかけずに生産できる小麦も多く栽培されている。



今回、実際にこの地域を走り、また、隋教授の実家である農家を訪れて村民委員会はじめ関係者の話を聞いたところ、確かに昨年秋から 150 日以上も雨が降らなかったものの、春節以降は多少の降雨もあり、冬小麦は順調に青く芽吹いているようであった。河川も水量こそ少ないもののそれなりの流量があり、基本的に収穫に大きな問題はないものと思われる。しかし、今回は問題ないとしても、問題の根本には中国の農業が天水頼みであるという構造にこそありそうだ。

隋教授及び村民委員会からのヒアリングによれば、今や中国農村部では農業に対する考え方が分化してしまっており、積極的にコストをかけてビニールハウスを作りイチゴ等を栽培して高い収益を上げようとする農家と、とにかく手間が少なければよいという考えで小麦を栽培する農家との考え方が大きく隔たっており、村で共同して水路を維持・補修することは困難になっているという。実際、今回もかつて水路だったというところを案内してもらったが、そこは今やだれも維持・補修を行わないため全くとろみ溜めと化していた。このように、コストのかかる水路維持・補修が期待できないため、農業を営む者はそれぞれが井戸を掘るしかなく、畑のわきにはあちこちに井戸小屋が作られていた。



↑ 完全にごみ溜め化した人民公社時代の水路。



↑ 井戸小屋。すぐ隣が水路だが水路は使われていない。

## (2) 農業高度化の取組み

さて、中国農業のマイナス面を先に紹介してしまったが、一方で最近中国における農業の高度化が大きく進みつつあることを説明する必要があるだろう。中国では日本と異なり農業分野への株式会社の参入は自由であり、実際、今回訪問したもう一か所の地域（青島市北郊の即墨市）では、地域を代表する従業員数2万人の企業集団「即発集団」が1500ムー（100ha）の農地を借りて緑色野菜の栽培に乗り出す現場を視察できた。（ちなみに賃料は1ムー当たり年間わずか1200元とのことだった。）



↑ 即発集団の農場計画図。観光農業も視野に入れているようだ。

こうした企業直営型（企業が農民から土地を借りて自ら営農）以外にも、中国では、農民の共同出資や農民への生産委託等、様々な形で大規模農業の取組みが行われつつある。特に山東省ではリンゴやワイン用ブドウ等がこうした形態で生産されており、後者の場合、シンガポール資本による投資も行われているようだった。

規模以外にも付加価値の向上（品質向上、共同商標・共同販売によるブランド化等）も進んでおり、その中心になっているのが農業合作社である。2006年に農民專業合作社法が成立してから急速に農業合作社の設立が進み、2009年には25万社に達したともされている。

山東省の煙台市郊外の觀水村は昔からリンゴの生産がさかんであり、その品質のよさ

で中国中に知られているが、ここでもリンゴの生育技術の研究と共同での肥料仕入れを行う合作社が設立されており、青島農業大学の技術指導を受け入れる等してある程度の効果を挙げているようであった。技術指導は無料であるため積極的に参加する農民が多く、今では施肥や水やり、袋掛けといった作業は日本と遜色ない水準に達しているとの説明であった。(品種は「ふじ」)



↑ 村の入り口には「中国リンゴ生産ナンバーワンの村 観水」とある。



↑ 文字通り地平線まで広がるリンゴ畑。

### (3) 中国地方都市に広がるバブル？

以上、農業農村、水利についての簡単な紹介をさせていただきました。

ついでに、今回、青島市北郊の即墨市を訪れた際に見かけた光景をご紹介して本稿を終えることにしたい。即墨市は海に面しており温泉も湧くためリゾート開発がさかんだが、数多く建てられた別荘はすべて完売というものの人の住んでいる気配は乏しく、内装すらされていない物件が多数見られた。また、海沿いには大規模なリゾートホテルや国際会議施設が建設中であった。国際会議施設の大きさは総展示面積 18 万㎡と日本最大の東京ビッグサイト（総展示面積 8 万㎡）の 2 倍以上である。これを中国経済活況の証と見るのかどうか、感想をぜひお聞きしてみたい。



↑ 周りに何も無い海辺に建設が進む超大型五つ星ホテルと巨大展示場（写真の一部）